



京都支部

2017年度支部活動報告



1. <2017.04.15 2017年度支部総会>
2. <2017.09.09 2017年度第2回例会>
3. <2017.11.26 2017年度第3回例会>
4. <2018.01.27 新年会>
5. <2018.03.04 2017年度第4回例会>

1. 2017年度支部総会開催

2017年4月15日

2017年度支部総会 4月15日、ウィングス京都で開かれ以下のように役員が承認されました。

新役員(2017年度、2018年度)

支部長	松田 栄子
副支部長	高橋 侑子
書記	勝目 さや子 橋本恵子
会計	多田 美智子 松尾 景子
国際委員	阪田 敦子 廣田 輝子
会員委員	塩尻かおり
監事	佐賀 千恵美

講演会では、

講師: 元家裁調査官 FPIC(大阪ファミリー相談室)

会員 中村 桂子氏

テーマ: 面会交流会から見た子供

別居している親と子が会って一緒に過ごすことを支えながら、そこでおこるドラマを、熱意あふれて、お話しくださり、問題点や、感動を表現してくださいました。

2. 2012年度第1回例会 京都支部のこれからを考える

2017年4月15日

日時 2012年 06月24日（土曜日）13:30～16:00
会場 ウィングス京都
司会 高橋侑子
出席者 18名

2012年度。新支部長・役員の下、第1回例会を開催。
支部長挨拶の後、今回のテーマに則して

- DVD「JAUW のあゆみ」鑑賞
- 横浜全国総会の報告
- 懇談

と進められた。

京都支部20周年の節目を迎えるに当たり、今年は原点に立ち返りたいと言う支部長の考え(下記)に沿った内容となった。



松田栄子支部長挨拶(要約)

昨年はJAUW 設立20周年でしたが、今年は京都支部の20周年になります。終戦後の高い志、皆の為に働きたいという気高い心と素晴らしい業績に思いを致し、頑張りたいと思います。1980年(昭和55年)に入会して、色々な行事に参加し経験を積めた事を協会に感謝しています。今年は原点に戻って考えたいと思います。



DVD「JAUW のあゆみ」鑑賞

2016年に作成されたDVDで、協会創立当時から現代までの会の足跡と諸先輩方の活躍等が写真を交えて綴られていた。そして今回は、松尾会員が持参して下さった故小野山永子さんより譲り受けたと言う1924年第18回国際会議の写真を収めたアルバムを回覧。会

場から当時を懐かしむ声が聞こえた。

そしてDVD鑑賞後、数名に感想をお願いした所、「懐かしい顔が見えた。」「今思うと昔、世間は裕福であった。」「携帯が無かった時代の準備は大変で、方々駆け回った。」「国際会議は大々的でインパクトが強かった。」他、皇太子妃美智子様(当時)をお迎えする際の緊迫した状況等、当時を知る人ならではの貴重な意見を聞くことが出来た。



横浜全国総会報告

5月13日～15日に横浜で開催された2012年度全国総会、及び第6回定時会員総会の報告を松田支部長、松尾会員、中村会員より受けた。出席者総数は総会で126名。うち、京都からの出席は5名。13年前と比べると約半分の規模となった。

○松田支部長

13日の午前の総会に続き、支部長会では役員と各支部長が参加。会計報告等の後、各支部の活動報告となった。所感は支部長会、懇親会共に報告が個々に長かった為テーマ議論が出来ず残念であった。

会計報告の際に問題として挙げたのが経済面の強化。一般社団法人になって12年目からは不動産も財産と見なされる為、年間支出の大幅増となる。それまでに新規会員の獲得等積極的に活動し、体制を整えねばならないとの事であった。

その他として、奨学生のその後の活動を纏めた冊子の作成。ケープタウンにて行われたGWIの会合報告があった。

中村泰子会員

懇親会には24支部が参加。各活動報告で印象的だったものは以下の通り。

東京 社会人大学生志望者を対象にした「チャレンジ奨学制度」の構想。

茨城 出前講座 各大学へ会員が出向き、講座を開講。

札幌 支部を4つに分けて役割分担をする。全会員に役割を持たせる事で積極性を促す。

奈良 例会を全て公開し、地域と密着する。

松尾景子会員

青木玲子前会長のお話が印象的だった。

- ・ IFUW という名称はブランドであるにも関わらず、断りもなくGWI に変更された事は残念である。
- ・ アメリカの弱体化を筆頭に、世界的にも会員数は減ってきている。その上資金援助可能な会員が減り、この会が貧しくなっていく。
- ・ GWI 事務局宛にメールで意見しても反映される事なく物事が決まってしまう。やはりツールを介してではなく直接の意見交換が大切である。

廣田輝子会員

本部の委員会の内2つの委員会について。

女性エンパワーメント委員会 若手の会員獲得を目的とする講座、「めげない私」開講予定。京都でも若手の会を考案中。

国際ネットワーク委員会 国際奨学基金から奨学生2名を留学生として日本へ招く。その内の1人が日本文学の研究。京都に来る機会があれば接触を試みる。

懇談

今回の懇談では会と支部が今後やるべき事の提案は勿論、会に対しての個人的な取り組みの姿勢や今後の活動における個人負担の程度等、忌憚ない意見交換が出来た。今後の支部活動にとって貴重な意見を聞く事ができ、有意義な時間となった。



3. 第3回例会 「将軍塚・青龍殿と大舞台」見学

2017年11月26日

11月26日。京都が1年で最も美しく、そして最も忙しくなるこの季節を大いに堪能すべく、野外例会を開催致しました。今回は京都の始まりの地でもある将軍塚と新名所青龍殿、そして大舞台見学です。参加者は食事のみの会員も含め12名。その内、例会初の試みとして子供2名も参加致しました。

先ず三条の「和食がんこ」にて昼食。支部長の挨拶、阪田会員の乾杯の音頭の後、彩豊かなお料理を楽しみながらの歓談。子供たちの賑やかな声も相まって和やかな会食となりました。



食事の後は循環バスに乗って将軍塚へ。曲がりくねった道をどんどん登って行くバスに展望への期待も膨らみます。そして出会った大パノラマに一同感嘆の声。正に京都一望の素晴らしい眺めでした。大舞台は清水寺の舞台の4.6倍の広さを誇り、晴れの日には西展望台から大阪のビルまで遠望出来るとの事。



各々「あそこが西本願寺でしょう。」「あれは東寺かしら。」と名所探し。その中で「新幹線！」と子供ならではの声も飛び出し、子供から大人まで楽しめる京都の景色は懐が深いと感じました。



大舞台を心行くまで楽しんだ後は新名所「青龍殿」へ。青龍殿は大正2(1915)年、大正天皇の即位を記念して「大日本武徳会京都支部武徳殿」(戦後、京都府に移管され「平安道場」に改名)として京都北野天満宮前に建立されました。平成10(1999)年、京都府の平安道場解体処分決定。平成21(2009)年、青蓮院が歴史的文化遺産の継承の為移築再建を決意。平成26(2014)年に完成しました。奥の殿には国宝である「青不動明王二童子像」が安置されています。今回は複製の参拝でしたが、力強さがひしひしと伝わって来ました。青龍殿の建物も美しく、磨きこまれた床や年月を掛け丸みを帯びた木に歴史を感じ、こうして次世代に継承された事への感謝の念が湧き起ります。



そして一行は将軍塚、庭園へ。将軍塚は8世紀末、桓武天皇が都を定めるに際して和気清麻呂に伴われ登り、眼下に広がる一帯を都にする事を決めました。そして将軍を模した土の人形に甲冑を着せてこの地に埋め、都の安泰を祈願したと言われています。

この場所で歴史が動いたかと思うと歴史好きでなくとも心が震えます。そして美しい紅葉。終始参加者には笑顔がこぼれ、大満足の会となりました。



私感ではありますが、ここ数年子育てに追われる日々で、紅葉を愛でる余裕は全くありませんでした。しかし、今回全力で命を燃やす木々の紅葉に触れ、歴史に触れ、心が豊かになった気が致します。親の心は子供に敏感に伝わるもの。豊かになった心が細る事無く、大舞台の如く広い心となって今後の子育てに反映されればと願うばかりです。



4. 京都支部新年会

2018年1月27日

雪国の寒さとはまた違う、そして厳しい顔を持つ京都の冬。当日もいつもに増して 厳しい冷え込みとなりました。そんな寒さの中、会員 14 名が集い新年の喜びを分かち合う事が出来ました。

松田支部長の新年の挨拶

久しぶりにお目にかかる皆様にもお会いできて本当に嬉しい新年会となりました。

さて、昨年10月に行われた全国セミナーの際に、鷺見会長が女性のリーダーシップに必要なものを「3つのC」にまとめてくださいました。それは、

Communication、

Challenge

Comprehensive

です。ここにいらっしゃる皆さまはこの「3つのC」を持ってそれぞれに活躍なさって おり、そんな皆様と共にこの会を運営していけることは大変素晴らしいことです。

2019年5月の京都での全国総会は20、21、22日と日にちも決まり、今年は皆様のお力を集めて全員参加で、心温まる有意義な総会に向けて準備していきたいと思います。是非、よろしく願いいたします。

今回は木村会員によるコントラバスの演奏が予定されていましたが、インフルエンザで欠席。中止となってしまいました。そこで伴奏を担当されていたピアニストの越川秀美さんに急遽ピアノを演奏して頂きました。



越川 秀美

京都市立芸術大学音楽学部卒業。卒業後ジョイントリサイタル、第32回なにわ芸術祭、デュオリサイタル等に出演。伊丹シティーフィルハーモニー管弦楽団と共演。その後は伴奏者として多くの演奏会、コンクール等に出演。

♪服部克久 Le・Rhone、

♪フレデリック・ショパン Waltz No.9 Op.69-1、

♪クロード・ドビュッシー Arabesque No.1

上記の3曲を演奏して頂き、その美しい音色で会場は華やかな空気に包まれました。その後和やかな雰囲気の中会食がスタート。今回の会場は京都市役所近くのフランス料理店「Chez moi」。ご夫婦で営む小さなお店で、シンプルながらもセンスの光る美しい店内に絶品の料理の数々。洗練された技と料理に対するご夫婦の真心に一同感動し、一層会話も弾みました。そして最後に全員で「花」を合唱し、“今年もよろしく”と会を締めくくりました。



5. 2017年度第4回例会

2018年3月4日

「日本在住の外国人家族との交流会」

桃の節句を迎え、ちらほらと春を感じられる季節となった3月4日。今年度4回目の例会は「日本在住の外国人家族との交流会」として、パキスタン、ベトナム、中国から来られたご家族を招いて日本での子育て事情や自国との違い等についてお話を伺いました。



会の最初は松田支部長による体操、リトミック。想像力を使って子供たちと一緒に空に舞う蝶を捕まえたり、お花を摘んだりと会員たちも少女に帰りました。最初は恥ずかしがっていた様子でしたが、「あっちかな？こっちかな？」と探しているうちに引き込まれ、目を輝かせて無心に。会場が一気に明るくなり自然と心もほぐれました。



体操の後はゲストを囲んで座談会。お忙しい中お子さん連れでご参加くださいました。

パキスタン人 在日5年

夫(パキスタン人)、子供2人

ベトナム人 在日3年半

夫(ベトナム人)、子供2人

中国人 在日7年
夫(日本人)、子供1人

皆さん現在子育て中で、最大の関心はやはり子供たちの周りの環境。特に保育園幼稚園選びはご苦労された様子で、入園はできたが園選びでは選択肢が少なかったとの事。そしてもう一つは家庭での問題。日本人と同じく周り(親や家族)のサポートが無く苦労をしている様でした。その他食事、教育、医療の事など自国との違いをお話して頂きましたが、総じて皆さん日本は住みやすいと感じてくださっているようでした。

最後は木村会員による手遊びと歌で子供たちと一緒に楽しい時間を共有し閉会となりました。

4か国の子供たちが楽しく遊んでいる所を見て感じたのは子供に国境は無い事。各世代一緒に体操や手遊びをしている様子を見て感じたのは世代間交流の大切さ。縦軸、横軸ともに刺激を受けた有意義な時間でした。

